

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和小学校	校長氏名	津田 秀司	生徒指導主事氏名	高岡 和也
-----	-----------	------	-------	----------	-------

**取組事例名 『児童会活動（チャレンジランキング大会）』**

**取組のねらい『キーワード 認め合う』**

- 異学年児童と一緒に活動することで、互いに思いやる心や協力して活動しようとする意欲を育てる。  
また、異学年集団のよさに気づく。
- 力を合わせて活動する中で、一人一人のよさを認め合う。

**取組の具体的内容『キーワード 縦割り班活動』**

- 縦割り班（全20班）ごとに校内オリエンテーリングを行う。

- ①班ごとに体育館に集合
- ②児童会はじめの言葉
- ③ルール説明



④オリエンテーリング

10種類（魚釣り・じゃんけん・宝探し・ボーリング・イントロドン・聖徳太子・缶タワー・ジェスチャーゲーム・どれだけのれるかな・バランスゲーム）のゲームが用意されている教室を回り、得点を積み重ねる。



〈5年生を中心に、ルールを守り静かに待つ〉

- ⑤班ごとに体育館に集合
- ⑥児童会おわりの言葉

- 翌日の児童集会で、結果発表と表彰を行う。

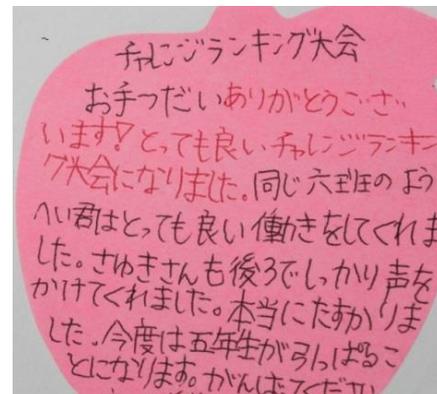
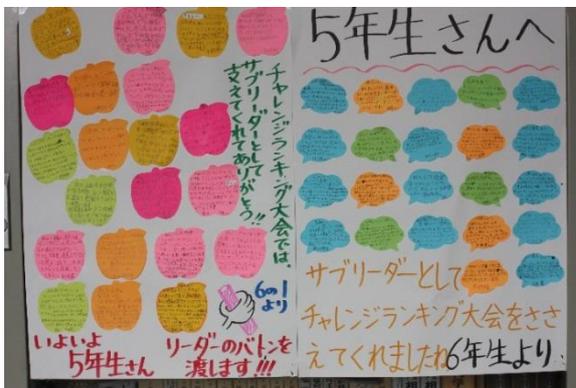


## 取組の課題・創意工夫 『キーワード 自主性』

- 児童会・6年生が中心になって、企画運営させる等自主性を大切にさせた。
  - ①児童会役員から「チャレンジランキング大会」について提案した。(代表委員会)
    - ※児童会通信「ふれあいニュース」発行
  - ②児童会役員が6年生全員に提起した。
    - ・係、役割分担の決定をした。
    - ・ルールを決め、全児童に周知し、自分たちで守らせた。
    - ・準備物作りをした。
- 5年生がオリエンテーリング時のサポートをした。
- 児童自身が活動の評価をし、各班に手作りの賞状を渡した。

## 取組の成果(効果) 『キーワード 6年生がお手本』

- 高学年(6年生・5年生)一人一人が役割を分担し協力して活動することができた。
- 一人一人の思いや願いを大切にしてい取り組んだことで、自己存在感を与えることができた。
- 協力し助け合って取り組んだり、互いのよさを認め合ったりすることで共感的な人間関係を育てることができた。
- 内容や役割分担、ルール作りなど自己決定の場や機会を多く設定することができた。
- 上級生が下級生のことを思いやり、下級生が上級生をよいお手本にしながら楽しい活動することができた。
- 自分たちで決めたルールを守ることで規範意識が高まった。
- 高学年としての責任や自覚、リーダーシップ等を、6年生から5年生に引き継ぐことができた。



大会後の6年生から5年生へのメッセージ

## 今後の展開 『キーワード 引き継ぐ』

- 児童会月間生活目標に生かす。例：(1月の生活目標)「他の学年にやさしく声をかけ、元気なあいさつをしよう」
- 3学期、5年生中心の児童会活動(1月：いじめ0キャンペーン月間の取組、2月18日：28年度前期児童会役員選挙 2月10日：選挙運動開始、3月10日：6年生を送る会)につなげる。

## 他校へのアドバイス 『キーワード 年間を通した取組』

- 特別活動が、年間を通して生徒指導の三機能を意図した取組になっていることが大切である。
  - 遠足(1年生を迎える会)、運動会(応援合戦)、学習発表会(全校合唱)、社会貢献活動(地区児童会)、チャレンジランキング大会(オリエンテーション)、6年生を送る会(各学年の発表)など